

但馬考

三

農務省
和書圖
第九號
第九冊

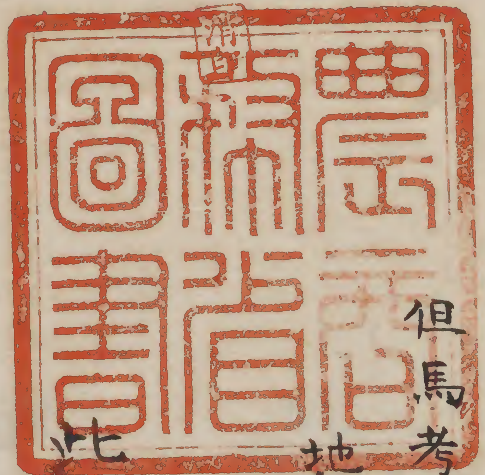
大政官文庫
和書門
一三二
一三八
一三九
九冊架

內閣文庫
和書類
一三二
一三八
一三九
七五函架

內閣文庫	
番號	和 11382
冊數	9 (3)
函號	175 107

一七〇号
第九冊





但馬考卷之三

地理第一

朝來郡

出石城臣櫻良翰輯



此地ニ朝來山トイフ名所有取テ郡ノ名トセリ俗ニ此郡ニイ
 マス粟鹿ノ神國中ノ一宮ニ諸ノ神タチ朝ヨリ来リマシ
 ヲテ故ニ朝來郡ト名ツケレト云臆説ナランタテ郡卿ノ
 名ハ其地名ヲ取テ名ツクル古實ナリ

日下部ノ系図ヲ考ルニ表米次男正八位下荒島ト云モノ
 藤原ノ朝廷ヨリ奈良ノ朝廷ニテ此郡ノ大領トナル
 其玄孫從八位下国守平安ノ朝廷正曆廿年

庚辰又大領トナル在任十二年國守ノ子乙主奈
良、朝廷靈龜三年小領ニ任シ養老七年大領ニ轉任
ス天平勝宝七年乙未死ス此人ノ弟姪ツヒテ郡司トナル
子孫衆多ナルカニハ悉ハアケス

延喜ノ此郡ニ傳馬五疋置レケルヨシ式ニ見ユ

倭名類聚鈔ニ載ル郷八

山口 桑市 伊田 賀都 東河 朝来 粟鹿 磯部
以上八郷 村数七十九

神名帳曰朝来郡九座大一座小八座

粟鹿神社名神大 朝来石部神社 刀我石部神社

兵主神社 赤瀨神社 伊田神社

倭文神社 足鹿神社 佐裏神社

山口郡

此郡八国ノ南境ナリ上古浪華平城ノ郡ヨリ當国ノ往来ミナ
播磨路ヲ通りニ此郷ヲ但馬ノ入口トスル也延暦年中都ヲ平
城ニ遷サレテモ中古マテハカクアリト見ユ順徳院ノ八雲抄ニ見
ノ浦ヲ播戸トシ但馬ノ温泉(向フ道ナリト記サセ玉ヒシモコレニナリ
平家繁昌ノ時ハ池ノ大納言頼盛ノ知行処ナリ鎌倉ノ時ニナリテ
平家ノ所領没收ヤラシカト頼朝御故池ノ禪屋ノ恩徳ヲ酬ヤシ
トテ件ノ家領三四箇所モトノ如ク彼家ノ管領名ルキ字壽永

三年四月六日其沙汰有_レ支東鑑見_ニ其内_ニ山口庄但馬トアリ
村数二十八分テ三トナル

生野^{銀山也} 猪野 奥野 小野^{鑿内} 竹原野 上生野

簾野 丸山 菅蒲沢 岩屋谷 津村子

右廣谷庄ト云

黒川 魚瀧大外

右黒川谷ト云

山口 口田路 奥田路 立野 新井 打瀬口八代

奥代 上本 土肥 平野 先波 神子畑佐中

右山口組ト云

太田文日廣谷庄七十町ニ及 領家地頭関東御領給

主伊賀入道女子跡 本家御分廿七町四反半

領家御分四十二町七反半

按ニト古ハ人民少クシテ土地ヒラケス故ニ郷ヲ合ツニタ、人家ヲ以テ
境トス中古以來人民繁シテ土地ヒラケ深山幽谷モ村落ナキハ
アラス今ノ地ヲ以テ古ノ郷ヲ見ル山中幽僻ノ所ハ其村落數殆ニ倍
セリ此一郷分テ教庄トナルニモ也

生野銀山 此山ヨリ銀出ル其始ノ定カナラス世ハ大同比トイヒ
傳フト名カ記セルモノナシ延喜雜式曰凡對馬島ノ銀ハ百姓ノ
私ニ操ニマカセ但馬國司ハ此例ニアラスト此文ヲ以テ考ル延喜ノ

時ステニ貢トセシナリ中華傳ハリシモ久シキ事ニヤ明人兩朝平
猿録ニ但馬銀ヲ出ストアリ又四書編ニ日本四ヲ載シモ但
馬ニ此處銀ヲ出スト記マリ今此山ニ傳フル記銀ニ八山名右衛門佐
祐豐守護ノ時天文十一年壬寅二月始テ鑛イテシカト銀トナス
事ヲシラス祐豐波落シテ信長公ヨリ生熊左兵衛ヲ代官トシ
テ置カル時石見ノ商人未テ鑛ヲセ目ニ歸テ銀ニ吹レヨリ盛
ナリシトゾ大同時ハ伊藤石見守奉行ス中瀬金山モヨ以前ニ出
テ別ニ代官アリシラ此時兼領ス慶長三年始テ江戸ヨリ代官ヲ置
クテ間宮新左衛門ト云同十九年大坂冬陣ヲヨリ惣堀ノ水抜キ
トテ銀掘ヲメサル間宮其人數ヲ率テ參レ陣中ニテ病死ス難

波戰記ニモ此處ヲ載テ築地ヲ堀シトアリ是ヨリ代ノ奉行ハ略
乏河合亮章カ道記曰但馬播磨ノ境ハ生野山嶺ニテ湯嶋川
ノ源ヨリ止レリ此嶺ヨリ分レテ南ハ落ルハ姫路東ノ町口ノ郷ト云
川流レ出ナリ生野ノ村ハ道ヨリ東ニアリテ道筋ニハアラス其奥ハ
銀山也此山往古ヨリ銀ノ出ル事絶ル事ナシ今ニ至テ年々銀ヲ
出シテ献上ス故東武ノ役人常ニ居住ノ陣屋アリ

生野古城 城ハ何ノ時ニ築カシ年代定カエラス山名左衛門尉
常照法名嬾真居士ト云人イラレシ其ノ詩ニ丁未臘月
廿日台命ヲ兼テ生野ノ陣ヲ開發スト云序アリ嬾真居士
ハ義教將軍ノ時留見ニ供奉セシ人ナリ此丁未應永三十

四等也イカナルハ山名ノ系図ニモレヌ

生野本行寺 今ノ只金屋アリ法花灵場記曰京都醒井通ノ
本行寺山ノ妙銀山同基本行院日雄聖人本旨典聖人在
住ノ古跡ヲ起ヤリ師ハ往昔房及少湊ニ住在シ十七世貫首ナ
リシカ不受用ノ法立ニ改ミリテ歷代ハ退去シ関東ヲ出テ京都ニ赴
キ玉フ其砌リ遠列掛川ノ辺ニテ山伏ニ行逢フ路次カラ問難テ
ステニ半日ニ及フ遂ニ對論ニ勝ユハ則長カアリ師ニ參ラセテ行方
ナシ其所ヲホツカナクテアルキ処ナラヌト人家ニ入り土地ノ案内ヲ
尋テ子共ハ但馬国銀山ニサフヲト卷テテ天狗ノシハサナテ下驚キ
毛即陀羅尼等ノ要偈ヲ誦シ心ニモアラス北国ノ地トナリ精

舎ヲ建立ス本行寺ト号ス

按ニ日雄ハ寛永十二年ニ死ヤリ然ハ當寺ノ同基其比ノ夏也
又生野内山寺但馬順禮サニ番也岩屋谷鷲原寺モサニ番
ノノ千手觀音アリコハ俗ニ女ノ高野ト称シテ甚恭敬ス然氏
古書ニ見ヘサルハ別ニマケス

黒川谷 太田文曰新井黒川保十七町 地頭柏原左衛門ニ即
接ニ此谷ヨリ丹波佐治ハ踰ル嶺ノ間ニテ

黒川大明寺 月菴録曰貞治丁未ノ秋道山陰ヲ経テ但ノ黒
川ニ介其幽邃ヲ愛シテ錫ヲ駐メテ以テ居ル柴棚ヲ床トシ楮皮
ヲ被トシ冷澹枯寂ニシテ世々邈然タリイニ夕半載ナラサルニ毛徒

雲ノ如クイタル師ニラ拒トモ可ス僅ニ記ニ造リ緇白指率テ弟ヲ
誅リ草ヲ插ミ遂ニ梵字ヲラス山ヲ雲頂ト号シ寺ヲ大明トイフ蓋シ
山頂高寒ニメ行道ニ使ナルヲ図ルナリ

按ニ月菴和尚諱ハ宗光姓ハ江民濃別ノ人ナリ當国ニ来ラ
レシ初アリ岩宮内少輔時巡尊信シテ遂ニ當寺ノ開トス康
應元年三月廿日遷化ス時巡シカ、奏聞ノ蓋ヲ正續大祖禪
師ト賜フ應永十五年時巡卒ス蓋ヲ大明寺殿巨川巡公
ト云フニナリ永享以來堂舎傾廢ス天文中大火ニ顛アリテ
什物残ス焼失ス大祖堂一ツ災ヲ遁テ今ニアリ其後沢菴和
尚修理セル磬搜集ニ曰

黒川大明寺佛殿ウケキスルトカニニ行テ

法モ未ニ傾アク月、菴ニハフラス雨ニモ袖ハヌレケリ

正保ノ初大愚和尚請堂ヲ再建ス慶安年中寺領十石ヲ賜フ

山口古城 信長記ニ天正廿年十月秀吉卿但馬ノ国へ働キ玉ヒ山口

岩洲初城セメテトアリ是ハ山村城山ヲ直ニ岩洲ト云テ他国人

ノ記ニテ誤テ兩城トセニリ又東鑑ノ山口大郎ハ此城主ナリトイ

ヒ傳フルモ非ナリ太平記以前但馬ニ城ハナキ也

田道 太田文曰田道庄白土町 本家一條殿

領家民部大夫地頭佐貫三郎太郎御家人 公文八代孫立郎入道道

佛

奥田路ニ古城アリ古書ニ見ハサルニ別ニアケス

佐中 太田文曰佐中庄ニ町六又 地頭江中務大即以清同舎
弟土用鶴丸公文比治形部左衛門入道生阿御家人

同御領畠拾壹町

三代実録曰清和天皇十年閏十二月廿日庚戌但馬国正六位上
左長ノ神ニ位立位下ヲ授ク

是當地支ニヤ外ニ考ル処ナシ源高寺如意輪觀音願礼在番ニ
柔市郷

今柔市村邊ヲ郷ナリ然氏伊油郷ト入シテ其境定カナラス故ニ
二郷ノ池一処ニ載ス重テ其地ヲ殆ハ詳ニコレヲ論セン

伊田郷

延喜式ヲ考ルハ己伊田郷ナリ由ト田ト文字似タニ傳写ノ誤ニルヲ其
倭国字附ト多ク今ハ伊油ノ庄ト云

村数

口多々羅木 奥多々羅木 立服 柔市 石田 伊油市場

物部 山内 納座 中野 川上 伊油山

多々羅岐 東鑑曰建久五年閏八月十日但馬国多々羅木庄ヲ
以テ始テ地頭補任ノ地トシ熊野ノ鳥居禪居ニ付ラルヘシト云コト
所望ニ依テナリ同九月廿三日但馬国多々羅岐ノ庄ハ源宰相ノ
領所也而ハ熊野鳥居禪居政左典日者彼邊ヲ所望スル莫他

二異ナリ間地頭補任御下レ文遣サル但レ限アル領家ノ乃
貢課役等ニ於テハ懈怠アルハカラサルヨシ今日御消息ヲ遣テ
太田文曰本家安嘉門院御領多々良岐莊十三町領家関
東分 地頭加治八郎輔朝
地ニ是上古ノ桑市郷也

伊由庄太田文曰近衛南殿御領伊由庄廿八町地頭太田左
衛門太郎政頼

同庄惣追捕使田一町又惣追捕使中務太郎関東給
伊由ノ位田十八町一反大廿歩 又号竹田ノ庄

按ニ弘安ノ比竹田辺ニテモ伊由郷ニ屬スト見ヘリ上古但

馬ニ無位田其コヲオカルモ何時ニ始リニ未考

立昭 太田文曰立昭御紙田五反又号皇嘉門院御紙田地頭佐
貫三郎太郎御家人 公文八代孫立郎入道道佛

日下部系図ヲ按ルニ立昭新大夫家修ト云モナリ東鑑ノ
台太郎家任カ父ナリ家任モ系図ニハ立昭太郎トアリ其子家
雅ヲ山口太郎ト云孫ノ家刑ヲ山口太郎ト云又家修弟ヲ
立昭東三郎大夫家廣ト云其子孫ニテ立昭東三郎ナト云
ハ其比東西ヲリニヤ

物部 太田文曰物部トノ庄十六町五反六十歩 領家八条左
少将 地頭左近藏人

本院御領内下庄八町 領家吉田大納言家 地頭小河

左近將監真盛 公文物部新太郎吉清跡

物部武士ノ支ナリ舊支記ニ天孫降臨時天物部等廿五人
兵仗帶ノ供奉シケル支アリ又日本紀ニ神武天皇元年宇摩志
治命ト道臣命ト兩人武瓊クタルニヨリ軍兵ヲ率テ内裏ヲ
警固ス道臣命ノ司ル軍兵ヲ未目部ト云宇摩志治命
司ルハ物部ト云古ハ軍團トテ諸國ノ郡ニト武士ヲ置ナル延喜
式ニ但馬國健兒平人アリ健兒ハスクニ兵士也是ヲ置処々健兒所
ト云下部ノ系圖ニ朝耒郡司安樹ノ孫ニ親直ト云モ健兒所
判官代トナリシ支有所ナリ古代武士ヲヨキニ物部ト云ナリ

當地ニ高峰寺上ノ順禮廿一番ナリ法道仙人開基ト云傳テ本尊聖
觀音

賀都郷

賀都庄 太田文曰觀喜光院領賀都庄百一町六反二百六十五歩内
但シ中分地

上庄六十八町五反三百歩

下庄七十三丁三百廿歩 地頭安坂薩摩左衛門尉祐廣

按ニコレ今ノ安井ノ庄ナルヘシ

久世田庄 謚菩提院領久世田庄十九町八反半

国衛領久世田勘納十町三反 地頭江民部大夫基俊家

村敷

久世 竹田 加都市場 寺内 箇江

右加都庄ト云又久世田庄ト云

下村 殿村 奥村 藤和 久留引

右安井庄ト云

西牧田 牧岡 市御堂法興寺 比地 玉木 和山 桑原

右牧田郷ト云

竹田 山名氏時此処城ヲ築キ太田垣ヲ守護代トシテラカル重編應仁記曰應仁二年二月廿日細川方ノ長九郎左衛門并ニ丹波内藤孫四郎正田夜久ノ輩人数ヲ催シ山名家ノ領地但馬国朝来郡ハ

乱ハ一品粟鹿磯邊ナドニ充滿タリ山名家臣太田垣土佐守同新左衛門父子共ニ在京シ新兵衛尉ハ但州ノ留守ニ在ケルカ手勢ヲ卒シテ樂音寺出向ニ品ノ上天同寺ノ敵ヲ葉武者ト見ヲホセテ磯邊ハ出所ニ敵東河ヲ發向ス不見ハ燒煙山領尾へ移ルヲ夜久野加茂山ニ打上リ遙ニ見ハ大将ト覺シテ旗ニ流ニ究竟勢共魚鱗ニ連テ廣キ野中ニ見ヘケリ味方ハ小勢ナリ如何ト思フ処ニ太田垣新兵衛尉木山城守ツケヤ者トテ鋒先ヲ揃テ撃テ駈ルニ勇銳ニ恐テアラケ靡ク処ヲ得テ賢ト大将ト覺シキ者切テ駈ル長モ内藤モ暫ク戦ヒ討死シケリ大将討ケル程ニ夜久ノ敵モ敗北シ東河ハ入ケル勢モ粟鹿一品ニアリシ兵モ皆悉ク散乱シテ足ヲ

タス逃失七合戦大利ヲ得タルヨシ京都へ註進シタリケハ宗全入
道大ニ感シ悦テ先年鹿苑院殿ヨリ并領シケル御賀丸トイフ重宝
ノ太刀ニ着替ノ具足一領相添テ新兵衛ニ送り賜ケル如此勝利
ナ者氏動スルハ敵ヲ引入ヘキノ由因ヘシ程ニ守護代太田垣土佐守
カ計ヒトシテ嫡子新左衛門宗朝ニ手柄サスヒト但別へ差下ス宗
朝此競ヒトテ細川領丹波国へ乱入シ佐治庄音梨山陣ヲ取テ
佐治芦田ハ云ニ及ハス大山濃アタリニテ悉ク從ヘス又下ロヨリハ是
モ山名家ノ垣屋越中守同平右衛門大將トシテ河口和久邊ニテ
乱入シケル所ニサキ雑説出来テ合戦シカニ成難ケハ是ヨリ但兵引
返シ又然ハ音梨山一口ニテ働不可叶トテ太田垣新左衛門モ音梨山

ノ陳ラ去テ但州へ帰陣シケリ

信長記曰大正五年秀吉郷但馬国へ働キ玉ヒ山口岩洲兩城セメラトシ
其キヲヒラテ小田垣カ居城竹田へ押寄セ手イタク攻ラレケルホトニユ
ラヘスニテ城中ヨリ頻ニ佗言ヲ申シ城ヲ明渡シ一命ヲ助カツテキニケリ
按ニ太閤此時當城ヲ赤松左衛佐廣通ニ給フ慶長二年赤松自殺テ
城モタヘヌ

破草鞋日宿竹田驛

山川千里暮靄鬱如霧一宿竹田驛六銀萍水僧蛩吟寒
四壁蛾撲暗孤燈脚力虺積憊咲知逼井藤河合力道記曰高田

ヨリ三里餘馬駅ナリ高田ノ馬ヲコニテ継リサト此所ハ馬ヤシ能
町ニ家並タチツケリ町ノ合右ノ方ニ觀音堂アリトノ山ハ赤松
氏ノ古城址ナリ此処ヨリ絹ヲ織テ出ス家ニ機ヲタツル吏京師ノ
西陣ニ似タリ是ヨリ東丹波笠山ヘテ道ニ柳瀬ト云ルアリ爰トトク
シテ絹ヲ織事此処ニカハラスト也丹後絹トイヒテ諸国ヘ賣出スモヲホシ
ハ但馬絹也又此町ニ木梳添ニテ塗タルヲウル其制イ麁イナリトイヒ
其價ノ容易ニメテ旅人はヲ買求テ歸ル者多シ

此所ニ觀音寺トテ頓礼セ番ノ札所アリ

牧田 太田文曰牧田郷四十三町八反十歩
除方ニ権門領ヲ定

同位田セ町ニ糸院御領 地頭東河藤四郎長茂御家人

赤瀨社 延喜式ニ出ツ太田文曰赤瀨社十一町百六十八歩

地頭中務太郎以清同舍弟土用鶴丸

是牧田村ナリ表采ノ傳記ニ曰表米異賊退治時風波アラ
クテ船ワレヌ時ニ海底ヨリ大ナル蛇出テ表米ヲ載テ岸ニ著凱
陣ノ時其蛇ヲ携ヘ飯リ朝来郡赤瀨ニ放テ神トシ祭リト一説
ニ赤瀨ハ人名ナリ表米ノ巨下トテ異賊ヲ攻テ勤勞アリ後ニ表
米トモニ神トストニ説氏古書ニ見ヘサハ何カ是ナル更ラニラス

法興寺 太田文曰法興寺六町四反 地頭佐々木信濃四郎左衛

門尉泰茂 不出註文之間任古帳註進之一

比治 太田文曰穀倉院領比治庄拾九町五反二百五十二步

領家吏長者被召置閑所之後地頭未補 公文此治太郎入

道忠御家人

玉木村ニ護念寺トテ順礼十六番ノ札所アリ

東河郷

太田文曰東河郷四拾町四反四拾步 地頭東河又太郎入道行阿

御家人 除方々權門領定八幡宮神人免廿八町二百十分俱

建長以後庄郷中分地也自弘安七年領家興地頭有中分実否

之相論

村數八

柳原 岡田 野村 中村 和 宮 白井 久田クダ和ワ

延喜式ニカ我石部神社アリニ太田文八幡宮ニテ今ノ宮村ナルヘシ

朝来郷

太田文曰本院御嶺朝来庄六拾四町五反 地頭安坂薩ノ八郎左衛

門尉 公文勢至丸御家人 同余田十町六反 地頭同薩ノ

六郎入道専生

是今ノ大月庄ナルヘシ

又曰東北院領殿下渡庄与布土庄五十五町 領家土御門春辨

地頭隱岐左衛門入道成佛跡子息新左衛門尉破懐

村數

大月未歳 樂音寺 柿坪

右大月庄ト云

廻間喜多垣 與布土 森 松木溝 黒越田 三保

右与布土庄ト云

朝来山 宗祇ノ名所方角抄曰在所不分

山今与布土庄ニアリ竹田ヨリ異ニ當ル前古城山後書倉山
ナリ上人愛宕山ト称ス己朝来山ノ詞轉セテナリ然モ宗祇時ヨリ
在所定カラス近代八粟鹿庄ノ山ヲ以テコレニツ大ナル誤リナリ粟
鹿ト朝来ハモトニ郷ナリ粟鹿神社ノイニス所ヲ粟鹿郷ト云朝来
山ナルハ朝来郷ト云明白の实疑フヘキナレ予ヒロク古記ヲ考ヘ

ア子クハ老ニトヒ今日ニシテ真ノ朝来山ノ面月ヲ見レ莫ヲ得夕
リタニ予カ幸ノミニ非ス夕此山ノ幸ナリ

懷中抄

秋色ハ朝来山ノ唐錦露イカナハ分テソムラン

廻間大林寺順礼ノ廿九番也サセル莫ナキエ(別ニアケス

粟鹿郷

村数

和賀 一品 早田 柴 粟鹿

今ハ和賀庄ト云

太田文曰御室御領和賀庄早一町九反三百四十步

地頭大膳亮秀政同舍弟即光秀已下後家女子六人分領

粟鹿神社 延喜式曰粟鹿神社名神文

三代實錄曰清和天皇貞觀十年十二月廿七日但馬國從五位上粟鹿神正五位下授之

同十六年三月廿日但馬國正五位下粟鹿正五位下授之

記曰上社炎出見中社龍神下社豐玉姬

諸神記曰粟鹿大明神但馬國一宮也上社彥火々出見尊中社

龍神 下社豐玉姬尊勸請如此又云伊弉諾伊弉冉相

生之兒大日神月神素戔嗚尊合之三神乎和銅元年丙申

八月廿日筆取神部八嶋勘注言上正六位上新羅將軍神力

カミヒコキ

直根関

諸神根元曰但馬國粟鹿大明神之元記伊弉諾伊弉冉ノ

尊相生之兒天日神月神素戔嗚尊合之三神乎和銅元年

歲次戊申八月廿日未世時古敵新羅禍害發リテ昔戒定

惠ノ箱ヲ宿置ル筈崎松原ニ新宮ヲ建立シ新羅ヲ降伏スキ

由書付テ吾座下ニ置テ具石居ニ於テ柏柱ヲ立テ宮殿ニ造

ル向彼新羅自然ニ降伏消除シント云々件ノ新宮、延長元年

ヲ以テ佛經遷御已ニ畢箱崎宮ハ北臣海ニ臨ミ西絶城ニ向テ異

賊未寇ヲ防方為也々我朝徳遐方ニ及フノミナラス高麗國境

ヒラ接テ犯サスト云々

臣ノ託也

具原和爾稚ニ今在記ヲ引テ曰式ニ於ニ座也彦炎出見尊欵
神社啓蒙ニ龍神ヲ籠神ニ作ル傳寫ノ誤ナラン國華万葉記
モコレニ從テ改メス

倭論語ニ當社ノ神詠トテ

空晴テ嵐ニ松ノ響キコソアスレ出シ神ノ心ヨ

當社ノ旧記ヲ考ルハ人皇十代崇神天皇ノ御宇粟鹿山ノ
麓ニ鎮座シテ五ノ十五代神功皇后三韓征伐勅願トシテ奉
幣使アリ平代天武天皇ノ御宇祭祀始ル清原冬滿卿奉
幣使アリ人皇四十六代清和天皇ノ貞觀十六年三月十四
日天下疫病ノ御祈アリ勅使倭朝臣時之卿人皇九十

代後宇多院弘安年中蒙古賊船長列傳多津ニ到ル
時ニ神德現ルヲ以テ正位勲十一等ヲ進メラル別宮五座
未社十六座アリ離宮一品村ニアリ守山神社ト云當社七
不思議アリトイハレ神祕トシテ志ニモラサス冬未社ノ池中ニ毎年
二月廿若荷ヲ生ヌ其長短ニヨリテ年穀ノ吉凶ヲレル

太田文曰當國ニ宮粟鹿大社百町七反二百廿六步

領家漆殿法印ノ跡 地頭島津常陸ノ入道

但雖相觸不出註文之間任建久九年百姓註文註進之
今ノ社領ハ三十三石アリ又法琳山鹿園寺社僧ト稱ス則順礼
十八番也神主大杉氏日下部宿禰ト云

